

森下さち子ニュース

日本共産党

2022年
11月号

和歌山
市議員団
TEL 435-1113
fax 421-4181

9月定例市議会報告



11月に入りました。

11月7日は二十四節気でいうと立冬、そして22日は小雪。

昼間はお天気でさえあれば暖かい日もあるものの、暦の上ではすっかり冬の様変わりです。今年もあと2か月だと思えば、もう気ぜわしい気分になってくるから不思議です。季節の変わり目であることに加え、寒さや冷えは人の体にとって大敵です。暖かくしてお過ごしください。

9月15日に開会された定例市議会は、一般質問、常任会の審議を経て、10月7日の最終日を迎え、市長から提案された議案13件すべてを賛成多数もしくは全会一致で可決し閉会しました。日本共産党市会議員団は13件中10件に賛成しました。3件については問題点を指摘し反対しました。また、議員発議3件のうち「北朝鮮のミサイル発射に対する嚴重抗議と断固たる措置及び防衛体制の強化を求める意見書」には反対しました。

教育に関わる事業は直営で

提案された補正予算の中に小学校給食民間委託事業、放課後

児童健全育成事業、第1共同調理運営事業の3つが更新のため債務負担行為として計上されました。給食に関わる業務、放課後児童健全育成事業（学

童保育）は、いずれも子どもに関わる専門性を持つ事業であり、もともと直営で運営されてきました。行政改革の中で民間委託されましたが、経費節減が最優先され、公的責任をないがしろにするものです。

中央卸売市場の南用地

今回500万円をかけて、市場の南用地に“道の駅”を整備する基本計画を策定するための業者選定を行おうとしています。

“道の駅”の整備については今後、市の経費が10億円必要だということです。金額の点でも場所の点でもまた、そもそも道の駅の必要性について市民の合意を得られず、不要不急事

業だと言わざるを得ません。

マイナンバーカード取得者にクオカード3千円

マイナンバーカードの新規申請者と保持者を対象に3千円のクオカードを支給することですが、目的はマイナンバーカードの普及促進と物価高騰に対する生活支援という説明でした。物価高騰による生活への影響は市民すべてにかかっており、マイナンバーカード取得の意思のない方が生活支援の対象から外れることは不平等です。

北朝鮮のミサイル発射に対する嚴重抗議と断固たる措置及び防衛体制の強化を求める意見書について

北朝鮮のミサイル発射に対し、強く非難し抗議するとう立場に異論はありません。しかしこの文案には、“ミサイル対処能力の強化”や“防衛体制の強化”を求めるも

のとなつていないことには賛成できません。軍事的強化ではなく国際社会は北朝鮮のミサイル問題を解決するため外交戦略の再構築にこそ力を注ぐべきであると考えます。

民主商工会の請願は継続に

所得税法56条があることにより、家族従業者の働き分が給料として必要経費に認められておらず、2016年に国連女性差別撤廃委員会からも「所得税法56条が家族従業者の経済的自立を妨げている」と指摘されています。所得税法56条の廃止を国に求める意見書への請願は継続審査となりました。

政治革新の道しるべ、
真実つたえ希望はこぶ

しんぶん 赤旗

日刊●月 3497円
日曜版●月 930円

2021年度
決算委員会



決算委員会で審査を行う森下さち子市議

9月議会が終了し、すぐに前年度の決算委員会が開かれました。10月17日に意見書の説明があり、18日から21日までは各分科会に分かれて審議、26日に討論、採決が行われ

無料
法律相談

井辺・森下さち子事務所にて

- 11月 9日 (水) 13:30~
- 11月25日 (金) 18:00~
- 12月 8日 (木) 13:30~
- 12月20日 (火) 18:00~

◆事前予約をお願いします。

市役所議員団控室
森下さち子まで

☎ 435-1113

閉会しました。12月議会の本会議において分科会の報告と討論、採決が行われる予定です。
私は経済・文教分科会において審議を行いました。詳しい内容は次号にてお知らせいたします。

新しい政治を
生みだす夜明け前

山添拓参院議員が講演
日本共産党演説会が10月29日、和歌山市で開催されました。県内の各視聴会場などにネット中継され、森下さち子市会議員が司会を務めました。

山添拓参院議員は、日本共産党の国会での論戦や命がけで戦争に反対してきたことなど100年の歴史を紹介し、憲法改悪や軍拡大合唱などの大逆流を示し「いま押し返している途上にある」と力説。



参議院議員
山添拓

自民党と統一協会の癒着について「岸田首相は毎日答弁が変わる」と右往左往ぶりを紹介。この問題は自治体にまで広がってきている。カジノを頓挫に追い込んだ和歌山県からも、もっと大きな声で統一協会に解散命令請求をと、知事に立候補予定している松坂みち子さんを先頭に頑張っていたきたいと訴えました。

中学校給食
自校方式で実施を

「まちづくりを考える会」は10月30日、学習会「中学校給食を考える」を和歌山市内で開催しました。

和歌山市は県内で唯一、中学校給食を実施していない自治体です。保護者らの運動で9年前に始まるうとしたものの、市が実施したのは業者さんの弁当を欲しい生徒だけが注文するデリバリー方式で、注文は全生徒の14%程度。

「おいしく温かい給食を全員に」という運動に対して、市の出した結論は1か所の給食センターで、8000食以上を調理・運搬するものでした。

「学校ごとにつくる自校方式」と運動は続いています。

報告した森下さち子議員は、和歌山市の小学校給食は自校調理が43校、共同調理が2カ所で8校

だと紹介。適温配食、細かなアレルギー対応、地元農産物の利用など、食育の面でもすぐれている自校方式による給食の実施を中学校でもと力説しました。



報告する森下さち子市議

先進といわれている宝塚市では、前市長の「学校給食は教育の一環」であり義務教育の間は市が責任を持つのが当たり前、お金を代えがたいとの信念のもとでの給食を紹介。

「和歌山市は学校の敷地問題をあげ『自校方式は困難』と言っているが、奈良市の例を見ても工夫すれば可能です。声を一緒にあげましょう」と、学習会を終えました。